

科目名	地域経済産業論 Regional Innovation		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・火・4 限	秋・火・5 限	-	-
担当教員名	秦信行	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は原則学外から講義を実施しますが、2 回程度、講義室から実施する場合があります。）※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>「地方創生」が日本経済の大きな課題の一つになっている。日本の戦後の経済発展の中での地方経済の在り方を振り返ると同時に、地方経済の活性化に向けた方策を議論していきたい。</p> <p><到達目標></p> <p>地方経済の活性化に向けて合理的だと思える考え方を受講生各自に示してもらい、出来たらそうした考え方に基づく実際の成功事例を見つけ出して紹介・プレゼンしてもらうことを到達目標としたい。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>基本的には講義形式の授業になるが、教員から講義中に出来るだけ多くの質問を学生諸君に提供するので、学生諸君はそれに答えて頂き、それを契機としてクラスで議論する形にさせて頂きたい。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>地方経済活性化や地方創生に関わっておられる研究者ないしは実務家をお二人程度お招きしたい。</p> <p><講義計画></p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p>1 回目：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：教員と履修生、双方で自己紹介を行い、同時にこの講義の概要を説明したい。 <p>2 回目：戦後日本経済の発展過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：戦後約 80 年、その間の日本経済の発展を振り返り、地方経済の在り方の変化を概観する。 <p>3 回目：産業集積の経済的意義と幾つかの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：産業集積の意義を考えると同時に、産業集積の幾つかの発展類型について説明する。 <p>4 回目：産業クラスターの経済学的な意義について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：マイケル・ポーターが主張した産業クラスターの経済学的な意義について考えたい。 <p>5 回目：日本の産業クラスター政策の流れと現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：2000 年以降本格化した日本の産業クラスター政策の変遷について概観する。 <p>6 回目：産業クラスターとして成功したシリコンバレーの歴史的な推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：シリコンバレーの産業クラスターとしての歴史を NHK 特集番組を視聴して理解する。 <p>7 回目：ハイテク産業クラスターであるシリコンバレーの成功要因を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：シリコンバレーが何故ハイテクの産業クラスターとして成功したのかを考えたい。 <p>8 回目：「G」と「L」の世界の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：富山和彦氏の「G と L の世界」の考え方を紹介し議論する。 <p>9 回目：何故「L」の世界がこれからの日本経済を甦らせるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：何故ローカル経済「L」の世界が今後の日本経済にとって重要であるかを説明する。 <p>10 回目：ゲスト講師の話（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：地方経済の活性化等についての研究者や実務家にご登壇頂き、ご講演頂く。 				

11 回目：ゲスト講師の話（2）

・要点：地方経済の活性化等についての研究者や実務家にご登壇頂き、ご講演を頂く。

12 回目：受講生のプレゼンテーションと議論（1）

・要点：学生諸君のプレゼンテーションを聴いた後にクラスでの議論を行う。

13 回目：受講生のプレゼンテーションと議論（2）

・要点：学生諸君のプレゼンテーションを聴いた後にクラスでの議論を行う

14 回目：受講生のプレゼンテーションと議論（3）

・要点：学生諸君のプレゼンテーションを聴いた後にクラスでの議論を行う。

15 回目：講義の総括

・要点：14回の講義のまとめと教員が考える地方創生についての必要な要因を整理し議論する。

<講義の進め方>

毎回の講義のレジュメを用意するので、事前にそれに目を通しておいて頂きたい。講義中に幾つかの質問をするのでそれに答えてもらった上で、それをきっかけにクラスの議論に発展させたい。

<事前事後学習内容>

既に述べたように、事前に毎回のレジュメに目を通し、理解出来ない言葉などについて下調べを行うことで講義内容をある程度理解してもらった上で毎回の講義に臨んで頂きたい。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には毎回2時間程度の時間を当てて頂きたい。

<教科書及び教材>

教科書は特に指定しない。

<参考書>

富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP新書
西澤昭夫/大滝義博『大学発ベンチャー成功の条件』創成社
原田誠司『ベンチャー簇業序説』東京図書出版など、講義中にも適宜紹介する。

<成績評価方法>

欠席6回以上の受講生の成績評価は行わない。評価は、①クラス貢献度（授業時の発言内容等）、②課題レポート、③プレゼンテーション、④ゲスト講師への質問や感想、の4点について評価する。

<課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法>

履修学生諸君個々の要請に応じてフィードバックを行いたい。

<履修条件>

特になし

<ディプロマポリシーとの関連> 発展科目

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可**<オフィスアワー>**

火曜日の4限と5限の間の時間（17時～18時）をオフィスアワーとしたい。但し、何か質問や意見があれば適宜メール（hata.nobuyuki@jigyو.ac.jp）での問い合わせをお受けする。

<その他>

特になし。